

我、生かすも殺すも我なり

Cross of Iron

戦争のはらわた

STARRING

JAMES COBURN
MAXIMILIAN SCHELL
JAMES MASON
DAVID WARNER
SENTA BERGER

A SAM PECKINPAH FILM

MUSIC COMPOSED AND CONDUCTED BY ERNEST GOLD
SCREENPLAY BY JULIUS J. EPSTEIN AND HERBERT ASHODI
PRODUCED BY WOLF C. HARTWIG
DIRECTED BY SAM PECKINPAH

ジェームズ・コバーン・マクシミリアン・シェール・ジェームズ・メイソン・デイヴィッド・ワーナー サム・ペキンパー監督作品 1977/U.K.=German/Color/Vista/133min Distributed by CABLE HOGUE Co., Ltd.

戦争のはらわた cross of iron

おしゃくしゃしたらベキンバーに逢いにいけ!

×××××大友 克洋 (映画監督)

暴力映画である。

暴力的な映画ではなく、暴力を描いた映画でもない。

映画それ自身が暴力なのである。

だからベキンバーの映画は、いつも哀しい。

この作品を最後に彼の映画が急速に衰えていったことも故なしとはいえないのである。

記念碑のような映画とは、いつもそういったもののなかかもしれない。

×××××押井 守 (映画監督)



『プライベート・ライアン』や『シン・レッド・ライン』に心の底から感動できなかったのは、

すでにサム・ベキンバーの『戦争のはらわた』をみていたからだ。

まだ、十代半ばの頃、この映画を初めてみた時、数日間、学校の授業中だろうと何だろうとおかまへなしに、

さまざまな場面があの痛切なテーマ曲と共に頭に浮かんで心が乱された。

あれから二十年、未だにあのラストのジェームス・コバーンの哄笑がそれをつめるベキンバー自身の眼差しと二重写しとなって私を撃ち続けている。

×××××篠崎 誠 (映画監督)

ベキンバー唯一のこの戦争映画はいわば戦争映画における『悪魔のいけにえ』なのだ。

ちはや誰もこの映画を見ずして、戦争映画について考えることは出来ない。

それは同時に第二次大戦において最も酸鼻をさわめた戦闘、独ソ戦について考えることなのだ。

生き延びるために殺戮のプロとならざるを得なかった男たち。その絶望、敗残の深さに匹敵するのは、我が国においては沖縄本土決戦だろうか。

主人公シュタイナーはこうつぶやくのだ。「神はサティストだが、それに気づいていない」。

クライマックスに訪れる阿鼻叫喚はベキンバー“死の舞踏”の白眉!

×××××高橋 洋 (脚本家)

オレは「戦う」という言葉の響きが好きになった。

冬眠でもしたくなるような寒いこの時期、今まで眠っていた“戦う本能”というものを呼び醒ましてもらった。

自分自身との戦いに勝つ大切さ、そんなことを教わった気がする。

×××××寺島 進 (俳優)



ううう。サム・ベキンバー監督って、超すごい! 全身全霊しびれました。うん。びりびりを100乗しても足りないくらい。これまで観てきたあまたの映画の中でも、文句なく(バスト1)のひつに挙げちゃうな。きっちり気合いの入った作品って、ほんと、生きる勇気を授けてくれるよね。今、元気のある人にもない人にも、ぜひ、観てほしい映画です。

×××××野中 柁 (作家)

「西に顔があり 南に頭がある 北に手があり 東に足がある」と泉谷しげるが昔歌っていたが、ここは西も南も北も東も死体と敵だけ! それでも笑うときゃ笑うのだ!

×××××花くまゆうさく (漫画家)



おおよそ戦場らしくない森が戦場になっていくあたりで異常な感覚に囚われ、的確に映像化された“戦場に立つ人間の皮膚感”に、ドイツ軍装品のカッコ良さ目当てで名画座に押し掛けたい当時の中学生は戦慄を覚えたものでず。

過剰な邦題も見終わった後で納得、のはらわた驚異感でも申しましようか、はっきり言ってトラウマです。

以後ヲヲヲの歌をまともに聴けなくなったほどです。

もちろんハリウッド製の戦争映画ではまず観ることの出来ない、忠実かつ充実したドイツ軍装備の数々も目撃させません。

後に戦争映画の主流となる、痛みを伴う「戦場映画」の先駆け・マスターピースである本作がニュープリントでリバイバル、いやはや長生さはするものであります。

×××××樋口 真嗣 (映画監督)

こんなに後味の悪い戦争映画は初めてだ。悲愴で、残酷で、救いのない戦争。

だからサム・ベキンバーはよりリアルな後味の悪さを我々に見せつけるのだ。見なくて済む人は、本当幸せものだ。

×××××みうら じゅん (イラストレーターなど)

(アイウエオ順、敬称略)

「戦争のはらわた」は間違いなく「'68年以後」の最重要作の一つであり、ハリウッド映画は今その影響圏内にある。

[CUT 2000年2月号より]

×××××阿部 和重 (作家)



この時点でベキンバーは狂っていたように思う。

この映画は、戦争や軍隊、ホモセクシャル、女性、そして男にさえ向けられた憎しみに満ちている。

僕は、泥に横たわる死んだ兵士のショットを強烈に覚えている。

ベキンバーが何度もこの兵士へカメラを戻す、そう、戦車が何度も兵士を轢いていく場面だ。

×××××アレックス・コックス (映画監督)

サム・ベキンバーは西部劇のアクション監督としては右へ出る者は居ない監督だ。

これは70年代末を代表する戦争映画である。

ロケ地は紛争前のユーゴで、戦闘シーンは非常に臨場感あふれた作品だ。つまり、戦場の臭いのある映画だ。

爆発シーンも最高だ! 史上最大の作戦以降、映画撮影では爆薬は最小限しか使われない。

大部分はガソリンで代用しているが、この「戦争のはらわた」は本物の爆薬をタッグリ使って見ごたえが違う。

×××××小林 源文 (劇作家)



この作品は観れば観る程に新しい発見がある! 映画としての質の高さは勿論の事。

劇中に挿入されている軍歌、そして当時の状況を表す細かい小道具に至るまで、細心の注意としっかりした考証がなされている。

×××××STEINER (ドイツ軍装品コレクター)



“はらわた”映画は数々あれど、ベキンバーの“はらわた”はホラーより恐く、ドキュメントより本質的で、ミニシアターより新鮮だ!

ベキンバーのたいなる遺産は21世紀も不変の勇気の在り方を示してくれる!!

×××××田口トモロヲ (俳優)

ううう。サム・ベキンバー監督って、超すごい! 全身全霊しびれました。うん。

びりびりを100乗しても足りないくらい。これまで観てきたあまたの映画の中でも、文句なく(バスト1)のひつに挙げちゃうな。

きっちり気合いの入った作品って、ほんと、生きる勇気を授けてくれるよね。今、元気のある人にもない人にも、ぜひ、観てほしい映画です。

×××××野中 柁 (作家)

「西に顔があり 南に頭がある 北に手があり 東に足がある」と泉谷しげるが昔歌っていたが、ここは西も南も北も東も死体と敵だけ! それでも笑うときゃ笑うのだ!

×××××花くまゆうさく (漫画家)



おおよそ戦場らしくない森が戦場になっていくあたりで異常な感覚に囚われ、的確に映像化された“戦場に立つ人間の皮膚感”に、ドイツ軍装品のカッコ良さ目当てで名画座に押し掛けたい当時の中学生は戦慄を覚えたものでず。

過剰な邦題も見終わった後で納得、のはらわた驚異感でも申しましようか、はっきり言ってトラウマです。

以後ヲヲヲの歌をまともに聴けなくなったほどです。

もちろんハリウッド製の戦争映画ではまず観ることの出来ない、忠実かつ充実したドイツ軍装備の数々も目撃させません。

後に戦争映画の主流となる、痛みを伴う「戦場映画」の先駆け・マスターピースである本作がニュープリントでリバイバル、いやはや長生さはするものであります。

×××××樋口 真嗣 (映画監督)

こんなに後味の悪い戦争映画は初めてだ。悲愴で、残酷で、救いのない戦争。

だからサム・ベキンバーはよりリアルな後味の悪さを我々に見せつけるのだ。見なくて済む人は、本当幸せものだ。

×××××みうら じゅん (イラストレーターなど)

(アイウエオ順、敬称略)

5月20日(土)から5月26日(金)まで
【ニュープリント】にて待望のロードショー

●前売特別鑑賞券=1400円 (当日一般=1700円)



◆◆上映時間◆◆ 12:50/3:25/6:00